

- 10 彼らに言え、『イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。見よ。わたしは人を遣わし、わたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルを連れて来て、彼の王座を、わたしが隠したこれらの石の上に据える。彼はその石の上に本営を張る。
- 11 彼は来てエジプトの地を討ち、死に定められた者を死に渡し、捕囚に定められた者を捕囚にし、剣に定められた者を剣に渡す。
- 12 わたしがエジプトの神々の神殿に火をつけるので、彼はそれらを焼き、神々を奪い去る。彼は、羊飼いが自分の衣をまとうようにエジプトの地をまとい、ここから安らかに去って行く。
- 13 また、エジプトの地にある太陽の神殿の石柱を砕き、エジプトの神々の神殿を火で焼く。』」

【 申命記 】

- 28 : 58 もしあなたが、この書物に記されている、このおしえのすべてのことばを守り行わず、この栄光に満ちた恐るべき御名、あなたの神、【主】を恐れないなら、
- 28 : 59 【主】はあなたへの災害、あなたの子孫への災害を驚くべき仕方下される。大きな長く続く災害、長く続く悪性の病気である。
- 28 : 60 主は、あなたが怖がっていたエジプトのあらゆる悪疫を、再びあなたにもたらされる。それがあなたにまといつく。
- 28 : 61 【主】は、このみおしえの書に記されていない、あらゆる病気、あらゆる災害までもあなたの上に臨ませ、ついにあなたは根絶やしにされる。
- 28 : 68 私がかつて「あなたはもう二度とこれを見ない」と言った道を通って、主はあなたを船で再びエジプトに戻される。あなたがたが、そこで自分を男奴隷や女奴隷として敵に身売りしようとしても、買ってくれる者はいない。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2022年3月20日(日)

礼拝メッセージノート

「 エジプトへの寄留 ～ふりだしに戻る民 」

| エレミヤ書講解-80 エレミヤ書 43:1~13 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 43章 】

- 1 エレミヤが民全体に、彼らの神、【主】のことばを語り終えたときのこと。彼らの神、【主】はこのすべてのことばをもって、エレミヤを彼らに遣わされたのであるが、
- 2 ホシャヤの子アザルヤ、カレアハの子ヨハナン、および高ぶった人たちはみな、エレミヤにこう告げた。「あなたは偽りを語っている。私たちの神、【主】は『エジプトに行ってそこに寄留してはならない』と言わせるために、あなたを遣わされたのではない。
- 3 ネリヤの子バルクが、あなたをそそのかして私たちに逆らわせ、私たちをカルデア人の手に渡して、私たちを死なせるか、あるいは、私たちをバビロンへ引いて行かせようとしているのだ。」
- 4 カレアハの子ヨハナンと、軍のすべての高官たちと、民のすべては、「ユダの地にとどまれ」という【主】の御声に聞き従わなかった。
- 5 そして、カレアハの子ヨハナンと、軍のすべての高官たちは、散らされていた国々からユダの地に住むために帰っていたユダの残りの者すべて、
- 6 すなわち、親衛隊長ネブザルアダンが、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに託したすべての者、男、女、子ども、王の娘たち、さらに、預言者エレミヤと、ネリヤの子バルクを連れて、
- 7 エジプトの地に行った。【主】の御声に聞き従わなかったのである。こうして、彼らはタフパンヘスまで来た。
- 8 タフパンヘスで、エレミヤに次のような【主】のことばがあった。
- 9 「あなたは手に大きな石を取り、それらを、ユダヤ人たちの目の前で、タフパンヘスにあるファラオの宮殿の入り口にある敷石の漆喰の中に隠して、

(4ページへ続く)

◆ はじめに ～選びの民が、奴隷として扱われた地に再び戻る

(1) アウトラインの第6区分。

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| ①ヨシヤの統治下で預言者としての召し(1章) | ②ゼデキヤ統治以前の預言(2~20章) |
| ③ゼデキヤ統治下での預言(21~29章) | ④12部族の将来(30~39章) |
| ⑤エルサレム崩壊後もそこに留まる者へ(40~42章) | |
| ⑥エジプトで語られた周辺諸国への言葉(43~51章) | ⑦エルサレム崩壊の預言の成就(52章) |

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| エジプトに帰ることの意味

*このメッセージは、イスラエルの歴史上の失敗を通して、神の計画と信仰を学ぶものである。

I 神のことばを拒否する民(1~2節)

1. 民の思いと神のことば(前回のおさらい)

(1) 人々はエジプトに寄留することこそ、正しい判断であると決めていた。

*実際には「あって欲しい」という願望。神も賛同するはずという勝手な確信。

(2) エレミヤに下った主のことば：「エジプトに寄留するな」

- ①ユダにとどまるのが主の御心である。従うならば、民はこの地で繁栄する。
- ②バビロンの王を恐れる必要はない。全能の神の守りの御手が伸ばされる。
- ③従順になるならば、神の恵みが与えられる。それには捕囚された民の帰還も含んでいる。
- ④エジプトが安全で、豊かな食物もあると言って逃れるならば、呪いが下る。
- ⑤その呪いとは、剣と疫病とききん(さばきの象徴的表現)である。
- ⑥エジプトに下った者の上には、エルサレムの住民に下ったのと同じ呪いが下る。



2. エレミヤへの反抗

(1) アザルヤ、ヨハナンと高ぶった人たちはみな、エレミヤを追求した。

①エレミヤを拒否することは、神のことばに対する拒否である。

*これまで正義を行った人々さえも、簡単に御心から逸れてしまう。

②預言者が神のことばを語ったのに、それを退ける姿勢は高ぶりである。

*恐怖に伴い、預言者のことばよりも世の確信を真理として選んでしまう。

II 自分を正当化する論理(3~7節)

1. エレミヤのことばを否定するために

(1) これまでのエレミヤの預言の成就を、民はことごとく見ている。

(2) 今回のことばを否定するために：バルクがそそのかしているというフェイク

2. 攻撃の矛先は同労者バルクへ

(1) エレミヤはバルクに偽りのことばを言わされている。

(2) バルクは自分たちをバビロンに引いて行かせようとしている。

(3) エレミヤを非難する口実をバルクのうちに見出している。

III ぶりだしに戻る民(8~13節)

1. 初めの思い(エジプト寄留)の実行

(1) 彼らは最初から決めていた通り、エジプトに寄留することにした。

①これは、申28：68でモーセが預言したこと成就である。

*従順に歩む祝福と、背くとき受けるさばきについて、語っていた。

②モーセはエジプトから出て来た民が、再びエジプトに帰ることを預言していた。

2. 二つのグループと神のあわれみ

(1) エジプトに下った人々の中には、二つのグループがあった。

①エジプトに喜んで下った人々 ②無理やり連れて行かれた人々。

(2) エレミヤとバルクは後者。神は前者に対して責任を問うが、後者はそうではない。

3. 再び神のことばが下り、それは成就する。

(1) いつ：ユダの民がタフパンヘス※に到着した時。 ※ナイル川東にあるエジプトの前線基地

①神は象徴的行為を通して、御心を示すようにエレミヤに命じる。

(2) 行為の内容：大きな石を取って、パロの宮殿(政府機関の建物)の入り口にある敷石のしっくいの中に隠す。

*これらの行為は、ユダの民がしっかり見ている前で行われた。

(3) その行為の解き明かし：

①バビロンの王ネブカドレザルがエジプトに攻めて来る。

*「わたしのしもべ」とは：歴史を司る神の駒「器」として用いられる。

②ネブカドレザルは隠された石の上に本営を築く。

③ネブカドレザルはエジプトを打ち、多くの死人が出るだろう。

◆ まとめ：エジプトに帰ることの意味

1. 一連の出来事を振り返り

(1) イシュマエルの暴挙は民の心をエジプトを動かした原因である。

この事件に基づくバビロンへの恐怖がなければ、これほど急な展開はなかった。

(2) 寄留を選んだ人々の根本的問題(不信仰)は直っていない。

①イシュマエルの暴挙と恐怖は、それを見えるように示すきっかけである。

*つまりイシュマエルのような人物の登場と、その暴挙はなるべくしてなったともいえる。

(3) 神はすべてをご存じであり、このような展開を預言していた。

①エジプトから召し出し、生まれた国家が破壊され、民は再びエジプトに戻る。

②神政政治国家イスラエルによる、一つの時代の終わりを表す出来事。

*民の不信仰さえも用いられ、イエス・キリスト登場への舞台設定が整ったのである。

2. プリムの祭りを覚えて

(1) 「契約の民としての扱い」はなくなる：アブラハム契約に基づく

(2) クリスマン生活への適用

①偽りによる自己義認でなく、悔い改める姿勢 ②祝福の確かさへの感謝